

児童生徒支援のための『ワンポイント・アドバイス』

～新年度のスタートに向けて～



学級づくり 12 箇月
4 月号
京都府丹後教育局

Tel : 0772-22-2175 Fax : 0772-22-0479
HP : <http://www.kyoto-be.ne.jp/tango-k/cms/>

この便りは、平成 24 年度丹後特別支援教育研究会研究グループⅡの協力を得て作成しております。

児童生徒理解と学級経営

ちょっと気になる児童生徒の理解と支援

発達障害の障害特性の理解に関する研修を受講される先生方は毎年増加し、小・中学校において困り感を示す児童生徒への理解が進んできました。

行動面や学習面で配慮の必要な児童生徒は何らかのサインを発しています。まずはそのサインに気付くことから始まります。そして、行動面や学習面でちょっと気になるつまずきや不器用さの背景にあるものを探ることが、児童生徒の適切な指導方策・支援につながります。

行動面 例えば、「個別に言われると理解できるが集団だと理解しにくい」「複数の指示だと一部しか聞いていない」などの「聞く」という表面上にあらわれる行動にはどのような背景があると考えられるのでしょうか。

表面上に現れる行動

- ・ 個別に言われると理解できるが集団だと理解しにくい。
- ・ 複数の指示だと一部しか聞いていない。

背景と考えられること

- ・ 聴覚弁別（音の違いを聞き分ける）能力が弱い。
- ・ 記憶容量（ワーキングメモリ）が少ない。

支援・解決策

- ・ 視覚的に捉えられるものを用いて伝える。
- ・ 全体に伝えた後に個別に伝える。
- ・ 指示の出し方を短く単純にする。

学習面 学習では、「作文が書けない」「本読みがたどたどしい」「漢字の写し間違いが多い」「国語の読解・算数の文章題が苦手である」などのつまずきがある児童生徒を見かけます。これらの学習面の指導・支援策を探る時にも、つまずきの背景にあるものを読み取ることで、より効果的な支援策を考えることができます。



作文を書くことが苦手な児童生徒

作文を書くために必要な力

- ・ 音から文字を想起する力
- ・ 目と手を協応させる力
- ・ 状況に合わせて表現する力
- ・ 文を構成する力
- ・ 出来事を思い出す記憶作業

- ・ 校外学習などで行った先の場所の写真の時系列で掲示し、その場所のポイントを書いて示す。
- ・ 担任と話しながら書きたいことをイメージさせる。
- ・ 5W1Hの文構成を視覚的に示す。

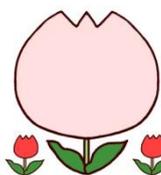
私たち教師や大人が困り感を示している児童生徒にとってカリスマティック・アダルト（「自分を理解してくれている」人物・モデルとなる人・あこがれの人）になれるように効果的な支援を一緒に考えることが出来たらと思います。そして、丹後地域における特別支援教育の更なる推進を目指していきたいものです。



通常の学級における特別支援教育

通常の学級には、発達障害のある児童生徒の他にも、家庭環境やそれまでの生育歴などから対人関係をうまく形成できなかつたり集団のルールに従って学校生活や授業に参加しにくかつたりなどの困り感を抱え、個別の支援を必要としている児童生徒もいます。「障害がある児童生徒」という捉えでなく「支援ニーズの高い児童生徒」として広い視点で対応を考えていく必要があります、これまでよりも個別対応の必要性が多くなったと感じられる先生方も多いのではないのでしょうか。学級担任は、学級の児童生徒が互いに関わり合い、ルールに基づいて生活できるように学級を「集団」として組織・運営していくことが求められ、一斉指導の中に個別の支援をいかに統合させていくかがポイントになります。つまり、通常の学級における学級経営・授業づくりに、特別支援教育の視点を取り入れた学級経営・授業づくりが求められていると言えるのではないのでしょうか。

つながりのある学級経営



学級担任は、学級全体の児童生徒同士の間人間関係を知るために、休み時間や授業時間の様子から観察から学級全体の人間関係を把握する一方で、個々の児童生徒の学習状況や注意・集中の度合い、コミュニケーション能力について探ることも求められます。児童生徒の特性の把握は人間関係の構築だけでなく、一斉指導の中での学習支援にも生かすことができます。個々の児童生徒の特性を知ること、児童生徒一人一人のニーズに対応する方法や学級の実態にあったアプローチの仕方で、児童生徒同士の間人間関係を構築することができます。



実践アラカルト

教室を静かにする設定や活動や作業の手順の視覚化

・聴覚過敏や音の聞き分けが難しい児童生徒は、ざわざわした背景音の中から必要な音をピックアップする能力の弱さを持っています。一斉指導の中で、聞き取れる環境を作り、聞き逃しても見て確認ができる視覚的な手掛かりが提示されていることで、安心して学習に取り組んだり活動に取り組むことができます。

やって見せ一緒にやって褒めて伸ばす

・細かい作業が苦手で指示が理解できないことが多く特に初めての場面ではどうしていいのかわからなくなってしまうたり、活動後の片付けに苦戦している児童生徒がいます。全体に指示を出す時に手順表を用いながらスモールステップで教師の見本と一緒に全員で練習をします。自分でできたことを褒めて意欲につなげることが大切です。

始める前にみんなで確認

・経験の中で遊びのルールを理解することが出来ますが、動きのある遊びでは自分がどのように動いていいのかわかりにくく、集団遊びに参加しにくいこともあります。遊びを始める前に、「こんな時はどうする？」というルール確認を書いて示したり、絵で表して遊びのイメージを持たせることも有効です。まずは、狭い範囲で複数で遊べる遊びから集団遊びの楽しさを体感できる工夫もできます。

学級のみんなを支援

・気になる子どもへの配慮や支援を周囲の児童生徒は「ひいきだ」と不満を感じる場合もあります。周囲の児童生徒が当たり前に行っていることでも、褒めて自分たちも見てもらえているという安心感が持てることで気持ちの安定が図られ学級も落ち着き始めます。